

## 大麦・大豆栽培の安定多収のポイント～南江守生産組合の事例～

福井市社地区の南江守生産組合では、大麦・大豆で毎年安定した高収量を維持しています。今回、この事例をもとに安定多収のポイントを紹介します。



排水溝の崩れを防ぐ塩ビ管



畝間灌水のタイミングが重要

大麦・大豆の単収の推移 (kg/10a)

	H26年	H27年	H28年	(参考・H28年)	
				県平均	全国平均
大麦	532	468	466	293	281
大豆	217	271	327	147	172

### ①第1のポイントは「排水対策の徹底」です

大麦播種前に暗渠と明渠に加え、サブソイラによる心土破碎を暗渠に平行(5m間隔)と直交(3m間隔)に施工しています。

明渠施工後は、塩ビ管を利用し、トラクター作業時に排水溝が崩れないよう注意しています。(写真参照)

また、大麦播種後は必ず暗渠管の清掃を実施しています。さらに、大豆では、湿害を回避して初期生育を安定させるために耕耘畝立て同時播種を行っています。

### ②第2のポイントは「土づくり」です

土づくりのため、毎年水稲作付時にケイ酸質資材を60kg/10a施用するとともに、大麦、大豆では酸度矯正も兼ね、それぞれの作付時に「ようりん」を50kg/10a施用しています。

### ③第3のポイントは大豆における「畝間灌水」です

大豆では、夏季に雨が降らない日が続くことがあるため、開花期から子実肥大期にかけて圃場をよく観察し、溝の底面が白く乾くような状態になる場合は畝間灌水を実施しています。〔農業経営支援部 富田企画主査〕

## 新規就農者が切り拓く水田での露地野菜づくり

福井市清水地区では、施設野菜に比べて就農時の初期投資を低く抑えられる露地野菜に着目し、平成26年に就農した河村雅人氏、東俊太郎氏を中心に、JA越前丹生と協力して、水田での露地野菜の輪作経営モデル(レタス+トウモロコシ+キャベツ体系)づくりに取り組んでいます。

予め全品目で市場と販売単価や数量などの取り決めを行うことで、経営リスクを低減しています。

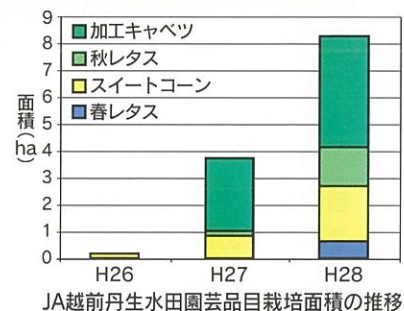
二人は栽培当初から、試験を重ねて栽培方法を改善し平成28年春から本格生産を開始しました。

また、この地区では二人を中心に、17名がこれらの3品目に取り組むようになり、レタス2ha、トウモロコシ2ha、キャベツ4haと大きく生産を拡大しています。レタスやトウモロコシは朝穫りで出荷し、その日のうちに店頭に並べられるため「新鮮!」と好評を得ています。

今春からは、新たに新規就農者2名が参加予定であり、露地野菜の産地形成がさらに進むよう農家を支援します。〔農業経営支援部 田中主任、下野企画主査〕



レタス生産者の出荷前圃場確認



## 編集後記

まだまだ寒い日が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。時折感じる暖かい日差しに春の訪れを感じますね。先日までポストこしひかりの名称募集が行われており、全国から10万件を超える応募がありました。県内外の関心も高く、本格的な生産が待ち遠しいですね。表紙で紹介されているような技術が進み、よりおいしいお米ができるといいですね。〔企画振興室 山岸主事〕



〒910-8555 福井市松本3丁目16-10 (福井合同庁舎内)

TEL 企画振興室(直通) 0776-21-8201

農業経営支援部(直通) 0776-21-8207

林業部(直通) 0776-21-8213

農村整備部(直通) 0776-21-8216

E-Mail: fuku-noso@pref.fukui.lg.jp



福井農林総合事務所だより

## 機械除草機を使った環境にやさしい米づくりの実践

永平寺町内では、環境にやさしい米づくりの取組みとして「れんげ米」(無農薬・無化学肥料栽培)の栽培が行われています。除草剤を使わないことから、「雑草対策」が大きな課題です。れんげ米で、機械除草を中心とした除草対策を実施した結果、除草をしない水田に比べて、雑草量を8割程度減らし、収量も向上することが分かったので、今回はその成果を紹介します。

機械除草の効果を最大にするためには、次の3点が大切であることが分かりました。

- ①機械除草は2回行う(田植え7日後と14日後がめやす)
- ②機械除草時には適切な水位をたもつ(水位3~5cm)
- ③複数回代かきや、成苗田植え、深水管理など、他の除草技術と組み合わせる

今後は、これらの条件を整えることにより、機械除草を核とした「環境にやさしい米づくり」を推進していくとともに、平成30年度から本格的に栽培されるポストこしひかりにも活用したいと考えています。



J A 永平寺職員による機械除草(2回目)

本年度の試験結果(永平寺町 A法人)

	雑草残存量 (本数/m <sup>2</sup> )	雑草残草乾物量 (g/m <sup>2</sup> )	坪刈り収量 (kg/10a)	収支差 (円/10a)
機械除草なし区	14	1.73	468	26,000
機会除草2回実施区	8	0.34	562	

※雑草残存量は7月上旬の調査結果  
 ※品種は、ポストこしひかりを使用  
 ※収支差は、機械除草なし区と2回実施区の差  
 ※収支差に用いた単価は、JA永平寺管内「れんげ米」のものを使用

〔農業経営支援部 中村主事〕

## 平成28年度各種農林業関係表彰一覧

賞名	受賞者名等	栽培技術の特徴
福井県麦作優秀者表彰 集団の部 知事賞	農事組合法人 エー・ビー・エフ (福井市荒木別所町)	・水稲刈取直後の額縁排水溝と補助暗渠、明渠を組み合わせた排水対策を徹底 ・土壌改良資材の施用による土壌酸度の矯正とリン酸の補給
福井県麦作優秀者表彰 農家の部 福井県経済農業協同組合連合会会長賞	寺井 敏高 (福井市天王町)	・赤カビ病防除、適期刈取等基本技術を徹底

# 足羽川用水が 世界かんがい施設遺産に登録されました

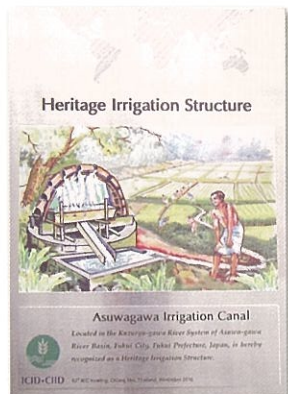
平成28年11月8日にタイ王国で開催されたICID理事会にて、足羽川用水が『世界かんがい施設遺産』に登録されました。

## 世界かんがい施設遺産とは

かんがいの歴史・発展を明らかにし、施設の適切な保全につなげるため、国際かんがい排水委員会 (ICID) が平成26年に創設した制度です。



認定証



盾

## ○足羽川用水

足羽川用水は、足羽川頭首工(福井市安波賀中島町)より取水し、1,997haの広大な農地をかんがいする幹線水路の総称で、7つの幹線用水22kmからなります。



足羽川頭首工(福井市安波賀中島町)

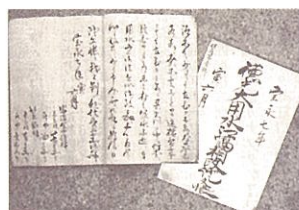
## ○足羽川用水の歴史

足羽川用水の始まりは、7世紀頃に開かれた荘園内の原始的な水路であると云われます。その後も足羽川から各用水を取水し、絶えず水争いが続いていましたが、江戸時代宝永年間(1710年頃)に用水奉行 戸田弥次兵衛英房により現在の足羽川用水の礎が築かれたと云われています。

## ○評価された内容

用水奉行戸田氏の時代に整備された施設において、①測量技術が高いこと、②当時では画期的な「木工沈床」による堰堤(通称「五本錠」)の建設、③水配分を均等にする「定石」の設置などが評価され、その内容が認定証にも記載がされています。

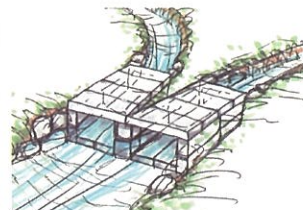
また、足羽川用水は旧来から地域住民の生活に密着した、防火・生活・環境用水でもあり、現在でも用水を活かした地域活性化の取組みが盛んに行われていることも評価されました。



①徳光大用水江幅相改証文帳  
当時の測量内容が記載されている書物



②木工沈床の付近図  
明治年間に作成された見取図



③定石(伝聞による想像図)  
笏谷石により分水地点に設置



東郷街道を通る堂田川



地域住民らが参加して造成した  
酒生ビオトープ

## ○世界かんがい施設遺産の登録を受けて

世界にその価値が認められた足羽川用水の歴史や役割について、地域住民や子供たちの理解を深めることはもとより、県内外への発信や観光との連携も含め地元土地改良区と取り組んでいきます。

[農村整備部 松山主査]

# コミュニティ(集落) 林業に取り組みましょう!

県では、平成22年度より、集落ごとに木材生産組合の設立を図り、山ぎわの間伐等を進めて活力ある山村づくりを目指しています。

今後、森林整備(間伐)を計画している集落の皆様、ぜひコミュニティ(集落)林業に取り組んでいただき、皆様の森林資源を有効に活用しましょう。

## コミュニティ林業支援事業の内容

補助金額 1,400千円(単年度のみの支援となります)

### 【組織づくりへの支援】

- 森林の診断、木材生産計画の策定
- ・森林の所在や資源、境界などの調査、合意形成活動(収益の分配方法、道づくりの方法など)

### 【基盤づくりへの支援】

- 施設整備、景観対策
- ・木材をストックする土場の設置、作業道の補修、山ぎわの枝払いなど。
- ☆『本格的な森林整備(間伐施業、道の開設等)』につきましては、別の支援制度もあります。〔林業部 仲保企画主査〕



集落座談会



境界立会い

# 第23回 全国花のまちづくり福井大会 が開催されます

県では、平成30年に開催される福井しあわせ元気国体や北陸新幹線の県内開業に向けて、来訪者をお迎えする環境づくりの一環として花いっぱい運動を推進しています。

平成29年6月3日(土)、4日(日)には、ハピリンをメイン会場として「全国花のまちづくり福井大会」が開催されます。

## ●第23回全国花のまちづくり福井大会

メイン会場：ハピリン(福井市中央1丁目2-1)  
サテライト会場：総合グリーンセンター(坂井市丸岡町楽間15)  
福井総合植物園プラントピア(越前町朝日17-3)

○イベント内容 6月3日(土) ●講演・事例発表会 ●交流会  
6月4日(日) ●講演・現地見学会

大会の詳しい情報は平成29年4月に「福井県森づくり課」のホームページでお知らせします。

皆様の大会へのご参加と地域での花いっぱい運動へのご協力をお願いします。

特別講演(6/3)



華道家  
假屋崎 省吾 氏

特別講演(6/4)



園芸研究家・  
ガーデンデザイナー  
吉谷 桂子 氏

## ～活動事例紹介～

福井市美山地区では花いっぱい推進員の家接夫妻が中心となり、フラワーロードと銘打って多くの方が利用する国道158号線沿いに春花壇・夏花壇を造成し、花がいっぱい咲くまちづくりを進めています。



[林業部 榊原企画主査]